

EX STAGE 06,"永遠の海賊

話者	セリフ・ト書き
	■シャティル社 ー特別戦略室ー
アデリア	失礼します。 すいませーん、ミヤコさーん。 室長、見ませんでした？
ミヤコ	イムラン様なら、インドの本社に 行っています。 明日の夜には戻られます。
アデリア	本社？ どうして急に……。 ……まさかアタシが不甲斐ないから 偉い人に怒られちゃうんじゃ……。
ミヤコ	考えすぎです。現状の報告と 追加の予算申請のためですよ。 ……あ、そうでした。
ミヤコ	あなた宛に、次のプロモーションで 使用するACTと『台本』を 預かっています。
アデリア	あ、はい。 でも……ACTはいいんですけど 『台本』って？
ミヤコ	見ればわかります。……さて、私は 【ユーザー名】様に 次のステージを打診してきますので。
ミヤコ	すみませんが、失礼します。 台本、しっかり読み込んでくださ いね。
ミヤコ	【ユーザー名】様…… こういうの、引き受けてくれる人だと いいんだけど……ふう……。
アデリア	え、ええ……。ミ、ミヤコさん？ な、なにやられるんですか…… アタシ達……。
	■イベント会場
アデリア	『ワハハハ！ ガキども、よくお聞き！ アタシがこの海賊ランドの女主人 アデリア様だーっ！』
アデリア	『これからお前達をさらって、 全員海賊の手先として こき使ってやるからねえ！』
子どもA	かいぞくー！ やるー！ オレ、かいぞくおうになるー！
子どもB	やだー！ ママー！ おうちかえるー！ ぴえええ〜ん！
アデリア	『泣いても叫んでも無駄だよ！ お前達はもう二度とパパや ママの所には帰れないのさ！』
アデリア	……………。
キョータロー	あ、おい！ 出番だぞ、 【ユーザー名】！ 変な間を空けるなよ！

イオン	台本2ページ5行目から 『こら！ やめるんだアデリア！』 です。がんばってくださいね。
	//選択肢 A こら！ やめるんだアデリア！ B 子ども達は俺が守る！ とうっ！
選択肢A	こら！ やめるんだアデリア！
イオン	さすがユーザーさん。 リハーサルどおりの 完璧な演技でしたね。
イオン	レイヤードの頂点に立つためには お芝居の表現力も必要不可欠です。 この調子でがんばりましょう。
キョータロー	おい、イオン。 このあと、すぐ俺らも出番だからな。 セリフもあるんだ、しっかりやれよ。
選択肢B	子ども達は俺が守る！ とうっ！
キョータロー	あいつ、アドリブ入れてきやがった。 いいぞいいぞー。台本のセリフは お行儀が良すぎるからな。
キョータロー	相手が子どもなら、 あのぐらいがウケるんだよな。 わかってんじゃねーか。
イオン	キョータロー、このあとはわたし達も 出番ですよ。ユーザーさんの アドリブを見習ってがんばりましょう。
選択肢合流	
アデリア	『むう！？ 誰だい？ アタシの 邪魔をするヤツは？ アタシに 刃向かうと……後悔するよ！』
アデリア	『……おいで！ キャプテン・フック！ この愚か者に、最強最悪の海賊と なったお前の力を見せておやり！』
キャプテン・フック	齒向かうものはすべて壊す！ すべてだ！
キョータロー	『あのピーター・パンのライバル、 フック船長か！？ ……だけど、 所詮はやられ役だろ？』
アデリア	……。
イオン	ふむ？ 台本によると次は、 アデリアのセリフですよ。
アデリア	……っ！？ そ…… 『そうとも！ でもね、こいつはもう ただのやられ役じゃないよ！』
アデリア	『妖精ティンカー・ベルを言葉巧みに そそのかし、妖精の粉が持つ魔力を 自分の物としたのさ！』
キョータロー	……あ、次は俺か。 『なんだと！？ そ、それじゃあ今の フック船長に弱点は……』
キャプテン・フック	『そんなものは無い！ あのチクタク時計ワニも 今のオレには恐るるに足らず！』
キャプテン・フック	『妖精の魔法で永遠の力を手にした このキャプテン・フックに 勝てるヤツなんざいないんだよ！』
アデリア	『そういうことさ！ 冷酷で残酷な 真の大海賊となったこいつを相手に どこまで戦えるかねえ！？』

イオン	ふむ……力を手にした真の大海賊。 悪役は敗れ去るという不変の 真理から解き放たれた存在……。
イオン	ですが、わたしは予言します。 キャプテン・フック、ユーザーさんは それでもあなたに敗れません！
イオン	レイヤードという大海の英雄は 大海賊をも凌駕すると 証明しましょう、ユーザーさん！
キョータロー	……イオンさん。 台本、台本……今、完全に『素』で 喋っちゃってるぞー。

話者	セリフ・ト書き
	//キャプテン・フックとのバトル
キャプテン・フック	いっちょ暴れるぜ、野郎ども！
アデリア	『おうとも！ 子ども達もフックの力を目にすれば、自分から海賊にしてくれと頼んでくるさ！』

話者	台詞 / ト書き
	■イベント会場ー
アデリア	『ば、馬鹿なああ！ このアタシと フックが貴様ごときに 負けるというのかー！』
アデリア	……がくつ。
子どもA	やったー！ とらぶるしゅーたーの おにいちゃん、かっこいいー！
子どもB	ママみてー。 わるいかいぞく、やっつけたよー。
キョータロー	……あつぶねえ。 アデリアのやつ、芝居忘れて 最後のほう、本気でやってただろ。
アデリア	『お、おのれー。 次はこうはいかないからね！ 覚えておきなー！』
イオン	む？ 次があるのですか？ ユーザーさん、 気をつけてください。
キョータロー	ないない。大丈夫だって。 ああいう捨てゼリフは、 悪役の『お約束』なんだよ。
イオン	ふむふむ。お約束とは……つまり 不変の真理。残念ながら大海賊は やはり真理から逃れられなかった――
イオン	結果的にわたしの予言は当たったと いうことですね！ ユーザーさんの 力がこの結果を引き寄せたのでしょう。
キョータロー	そう……なのか？ けど、こうも自信満々に言い切られると そんな気がしてきた……。
キョータロー	【ユーザー名】、 お前のヒロインは、本当に前向き っつーか、ポジティブだよなー。
	■シャティル社ー特別戦略室ー
イムラン	帰りの飛行機で 配信見てたよー。 アデリアくん、いい演技だったね。
イムラン	本社も君達の活躍は 高く評価してたよ。その証拠に 追加予算もバッチリで……。
アデリア	室長お〜っ！ なんで……なんでアタシが 悪役なんですかあ〜っ！
イムラン	……近い、顔近いって。 会場ではともかく、配信での 評判はとっても良かったよ？
イムラン	どんなお仕事も、一生懸命 体当たりのアデリアちゃん カワイイって……。

アデリア	う、うう……。 アタシにとって憧れのお仕事の ひとつだったのに……。
アデリア	ああいうショーでアタシの 役目と言ったら、『司会 お姉さん』だと思いませんか？
アデリア	可愛い服着て、『みんな！ お姉さんと一緒にヒーローを 応援して！』……でしょお！
イムラン	そ、それをボクに言われても…… 台本作ってくれたの、 マチスくんだし……。
アデリア	……。 ……ちょっと問い詰めてきます。
イムラン	こ、これは面白いものが 見られそうな予感。 ボクも一緒に……。
ミヤコ	お待ちを、イムラン様。 ひとつお聞きしたいことが あります。
ミヤコ	……追加予算申請の件、 嘘ですよ？
イムラン	なにを急に。 嘘じゃないってば。そっちも しっかり承認もらってきたよ。
ミヤコ	そっち『も』……ですか？ やっぱり本命は 別にあつたということですね？
イムラン	しまった……ハメられた。 やだなー、もう。
イムラン	……わかったよ。 ミヤコにだけは正直に 白状する。
イムラン	本当にナイショだからね？ ……実は、ちょっと本社の メインサーバーに細工をしに。
ミヤコ	……！？ な、なんてことを！ と言うか、なんのために……。
イムラン	そりゃあもちろん、 来たるべき時に備えてさ！ 下準備だよ。
イムラン	まずはwiz-domの内部に、 もつともつと 監視ポイントを増やしたいんだ。
イムラン	wiz-domにどんなに小さな 揺らぎが発生しても 見逃さずに観測できるようにね。
イムラン	それに、いざ『それ』を 引き上げた時に、膨大なデータを 受け止めきれぬスペースもいる。
イムラン	どっちも完璧にやろうとすると 日本支社だけのサーバーじゃ 絶対的に足りないんだ。
ミヤコ	上層部に露見すれば 懲戒どころではありませんよ？ 下手すれば、クビですよ？
イムラン	だから、足がつきやすい リモート操作を避けて、 直接いじりに行ったんじゃない。

ミヤコ	そういう問題では……。……はあ……。
イムラン	まあまあ。……さーて、準備準備っ♪ まずはどこからやろっかなー。
	■ ???
???	ここは おはなし おはなし の なか
???	ふるい びかびか な おはなし が あたらしい きらきらの ふく を きた……
???	ここは おはなし おはなし の なか……
???	わたしは おはなし わたしも おはなし おはなし の おはなし……